

賀詞交歓会挨拶

～ 視座を高め社会に貢献する組織へ ～

宮城県行政書士会

会長 佐々木 政勝

間もなく震災から12年目、遺族にとっては13回忌を迎えます。ご来賓、ご参集の皆様「政官民金」の多大なご尽力によって復興の「鑄型」日本版が出来、復興が遂げられて来ました。関係各位に日頃の感謝とともに、心より敬意を表したいと思います。

さて、ロシアのウクライナ侵攻、それに起因した世界のエネルギー・食糧不足、物価高騰、核兵器使用の脅威、また、海洋プラスチック汚染、気候変動。これらは、個人は世界と直結していることを示しています。地球市民としての意識、世界に視点を向ける（視座を高める）行動が求められています。

翻って本会は、3つの基本方針「研修事業の充実、自らを律する事業、社会に働きかける事業」を掲げ、行政書士制度が維持発展するにはどんな施策を取れば良いのか、どういう施策が県民事業者の繁栄に貢献できるのか、本会は愈々こうした議論を重ねていかねばなりません。

分断から融合へ、会員の福利厚生の団体から、県民の権利利益の実現に資する社会的使命を担う団体へと変容すべきであり、本会も又、視座を高めて行かねばならないと考えます。

こうした視座からの目新しい事業、例えばマイナンバーカード代理申請事業では、3800件は全国3番目、1400万円の事業費は2番目。これは協力頂いた会員にすべて還元されます。昨年、包括協定締結の多賀城市では空き家セミナー・相談会、(株)ベガルタ仙台では広報月間の広報活動を展開させて頂いております。

また、本格的に企業支援事業を始めました。これは、許認可、補助金に絞った支援です。精通した許可要件と補助金申請の実績を梃にして、行政書士の強みを生かした支援を目指します。各機関と連携し「宮城モデル」として、地域経済の発展に貢献したいと思います。

そして、視座を高めるヒントは、東北学院大学 柳井教授の言葉にもあります。『日常の延長を未来であると考え、進化の否定である。』日々の延長が未来だと考えてはいけない。

さて、『世界は贈与でできている』の著者 近内悠太氏の講演をお届けします。

最近アメリカでは、国民が生きるために最低限必要な電気、水道、ガスは、社会が無償で提供するべきだという考えが起きている。この考えは、震災で被災者も支援者も多く体験した『利他の精神』です。

こうした精神は行政書士業務の基であり、近内悠太氏の考えに相通じるものがあります。

そして、お手元の「50周年記念誌」は、編集スタッフが50年の総括と行政書士像のブランディングを試みています。ご高覧頂ければと思います。

令和5年1月27日